熊本学園大学付属海外事情研究所 2018年度第3回研究会

文学から見る台湾

―植民地期作家のエクリチュールと精神史―

参加無料

日　　時：2019年1月25日（金）
　　10：40～12：10

会　　場：熊本学園大学 14号館1411教室

講　　師：黄美娥 氏（台湾大学台湾文学研究所教授兼所長）

講演言語：中国語　※通訳（小笠原淳・本学外国語学部准教授）

＜プロフィール＞

輔仁大学中国文学研究所博士。静宜大学、政治大学中文系准教授を経て、現在台湾大学台湾文学研究所教授兼所長。初期には中国古典文学研究に従事、以降二十年来は台湾文学の研究と教学に傾注している。研究対象範囲は古典文学から現代同時代文学までと幅広い。著書に『重層現代性鏡像：日治時代台湾伝統文人的文化視域與文学想像』、『古典台湾：文学史・詩社・作家論』などがあり、多くが日本語訳されている。巫永福文学評論賞、台湾文学年鑑焦点人物などの受賞歴がある。北京師範大学及び厦門大学客員教授。

1895年、中国の甲午戦争（日清戦争）の敗北によって、台湾は割譲され、日本による統治が開始された。それから五十年という植民の歳月が流れることになる。この時代の巨大な変化に直面し、台湾人は自身と外部世界を認識する方法の見直しを余儀なくされた。この時期の植民の歴史の背後には、日・台双方の「精神史」が関わっているといえる。どのようにすれば、この時期の精神史を実像として浮かび上がらせることができるのだろうか。本講演では植民地期の「文学」を窓として、こうした問題を見つめ直してゆく。

参加ご希望の方は、下記までFAXまたはEmailのどちらかにより事前の申込みをお願いいたします。

申込みの際は、ご氏名・ご所属・ご連絡先を明記ください。なお、申込受付後、受講ハガキ等はお送りしておりません。当日はそのまま会場へお越しください。※駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

＜申し込み・問い合わせ先＞

熊本学園大学付属海外事情研究所（担当：学術文化課）

月～金　8：45～17：15（12：30～13：30除く）

Email：kaigai@kumagaku.ac.jp　／　FAX：096-364-5201（専用）

〒862-8680　熊本市中央区大江2-5-1　TEL：096-364-8731（直通）